



2019年度夏季 海外短期研修等 学修成果まとめ

■ 測定する「17の尺度」および「7領域」

※適度に低いことが望ましい

i. 妥当性 (Validity Scales)

- ・ Consistency (一貫性): 類似又は同一の内容を測っているが表現の異なる質問項目に対する、回答の一貫性
- ・ Congruency (適合性): 統計的に推定できる回答パターンとの、回答の一致の程度

【高】・【低】と表示した尺度はフルスケールスコア (BEVIが測定しようとする「中心的な本質」の全体スコア)

ii. 形成的因子 (Formative Variables)

1. Negative Life Events (人生における負の出来事): 困難な子ども時代、問題を抱えていた両親、人生における葛藤/苦悶、多くの後悔

iii. 中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)

2. Needs Closure (欲求の抑圧): 不幸な生い立ち/生活史、いさかいの多い不安定な家族構造、物事が起こる原因/状態の原因についてのステレオタイプの思考/筋が通らない説明
3. Needs Fulfillment (欲求の達成) 【高】: 経験・欲求・感情に対してオープン、自分・他者・より広い世界に対する気遣い/思いやり
4. Identity Diffusion (アイデンティティへの否定的な度合い): アイデンティティの危機、結婚生活/家族生活についての否定的宿命論、自分や将来に対する「否定的な」感情

iv. 不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)

5. Basic Openness (基本的な開放性) 【高】: 基本的な思考、感情、欲求に対してオープンかつ率直
6. Self Certitude (自分に対する確信) 【低】 ※ 強い意志、困難に対し言い訳することが我慢できない、ポジティブ思考を強調する、深い分析を好まない

v. 批判的思考 (Critical Thinking)

7. Basic Determinism (決定論・必然論的傾向) 【低】 ※ 差異/行動について簡潔な説明を好む、人は変わらない/強者が生き残ると信じている、苦勞の多い生活史
8. Socioemotional Convergence (社会・情動の理解): 自己、他者、より広い世界を認識している/オープンである、思慮深く、実用主義、意思が固い、自立の必要性を認める一方で弱者を気遣うなど世界を白黒では捉えない

vi. 自己の理解・アクセス (Self Access)

9. Physical Resonance (身体への共鳴): 身体的欲求/感情の受容、経験主義、人間性/進化の影響を評価する (例: 「私は自由な精神の持ち主だ」、「私の体は私の感情に敏感だ」など)
10. Emotional Attunement (感情の調整) 【高】: 感情に動かされやすい、傷つきやすい、社会的、愛情を求めている、親和的、愛情表現に価値を置く、家族関係が親密
11. Self Awareness (自己認識) 【高】: 内省的、自己の複雑性を受け入れる、人の経験/状態を気遣う、難しい思考/感情を許容する
12. Meaning Quest (意味の探求): 物事の意味を模索する、人生にバランスを求める、耐性がある/根気が強い、感受性が高い、弱者への思いやり

vii. 他者の理解・アクセス (Other Access)

13. Religious Traditionalism (宗教的伝統主義、信仰心) 【低】 ※ 宗教心があつて、自己/行動/出来事を神聖的な力によるものとする、「来世」を信じる
14. Gender traditionalism (ジェンダー的伝統主義) 【低】 ※ 男性と女性はある型にはまるよう創られている、伝統的/単純なジェンダー観やジェンダーの役割を好む
15. Sociocultural Openness (社会文化的オープン性) 【高】: 文化、経済、教育、環境、ジェンダー/国際関係、政治の分野におけるさまざまな行動、政策及び実践について進歩的オープンである

viii. 世界の理解 (Global Access)

16. Ecological Resonance (生態との共鳴) 【高】 環境/持続可能性の問題に深く関与している。地球/自然界の将来を懸念している
17. Global Resonance (世界との共鳴) 【高】: さまざまな個人、集団、言語、文化について学ぶこと/出会うことを努力している。グローバル社会への関与を望んでいる

研修名	② 形成的因子 (Formative Variables)	③ 中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④ 不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤ 批判的思考 (Critical Thinking)
ヒマラヤグループ フィリピン研修	・自信の生い立ちが困難であったかの認識は変化しなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑制するようになった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情のオープンさは変化しなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が減少した。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求をオープンにし、率直になった。(尺度5) ・物事を決めつける思考に変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考には変化がなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識が減少し、弱者を気遣うなどの配慮が乏しくなった。(尺度8)
World Language Center (WLC) 夏季イースト大学研修	・自信の生い立ちが困難であるとの認識は低くなった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求に変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情を抑制するようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情は変わらなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求のオープンさは変わらなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考が弱くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識が減少し、弱者を気遣うなどの配慮が乏しくなった。(尺度8)
文学部 パッキンガム大学語学 研修	・自信の生い立ちが困難であるとの認識が強くなった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑制するようになった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情のオープンさは変わらなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情は変わらなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求のオープンさは変わらなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考が強くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考には変化がなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識が減少し、弱者を気遣うなどの配慮が乏しくなった。(尺度8)
国際部主催 ナイロビ大学研修	・自信の生い立ちが困難であるとの認識が強くなった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑制しなくなった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情のオープンさが増加した。(尺度3) ・将来への否定的な感情は変わらなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求にオープンさは変わらなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考が弱くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いは変わらなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識が減少し、弱者を気遣うなどの配慮が乏しくなった。(尺度8)

3

研修名	⑥ 自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦ 他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧ 世界の理解 (Global Access)
ヒマラヤグループ フィリピン研修	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考が弱くなった(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった(尺度15)。	・環境問題への共感が弱くなり、自然界の将来への懸念が減少した(尺度16)。 ・グローバル社会への関心に変化はなかった(尺度17)。
World Language Center (WLC) 夏季イースト大学研修	・身体的欲求を受入れ難くなった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・伝統的な宗教感に対する心情は変化しなかった(尺度13) ・ジェンダーなどの伝統的な考え方には変化はなかった(尺度14) ・社会、文化へ閉ざしがちになった。(尺度15)。	・環境問題、自然界の将来への懸念が減少した。(尺度16) ・グローバル社会への関与については変化がなかった。(尺度17)
文学部 パッキンガム大学語学 研修	・身体的欲求をより許容できなくなった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置くようになった。(尺度10) ・自己の複雑性や難しい思考などの受入れに変化はなかった。(尺度11) ・意味を求める度合いが強くなった。(尺度12)	・伝統的な宗教感に対する心情は変化しなかった(尺度13) ・ジェンダーなどの伝統的な考え方が強くなった(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15)	・環境問題、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会へ関与することに興味が薄れた。(尺度17)
国際部主催 ナイロビ大学研修	・身体的欲求の許容に変化はなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いに変化はなかった。(尺度10) ・自己の複雑性や難しい思考などを受入れにくくなった。(尺度11) ・意味を求める度合いが弱くなった。(尺度12)	・伝統的な宗教感に対する心情は変化しなかった(尺度13) ・ジェンダーなどの伝統的な考え方が弱くなった(尺度14) ・社会、文化へオープンになった。(尺度15)	・環境問題、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会へ関与することに興味が強くなった。(尺度17)

4

【詳細分析例】

ヒマラヤグループ フィリピン研修のBEVI-jによる分析

期間：2019年8月18日～8月28日

参加者：23名

研修目的：語学研修

研修内容：フィリピンの文化・歴史を学ぶと共に、
実践による英語学習および交流関係を
広げることで創造的世界市民へ成長する
ための糧とする。

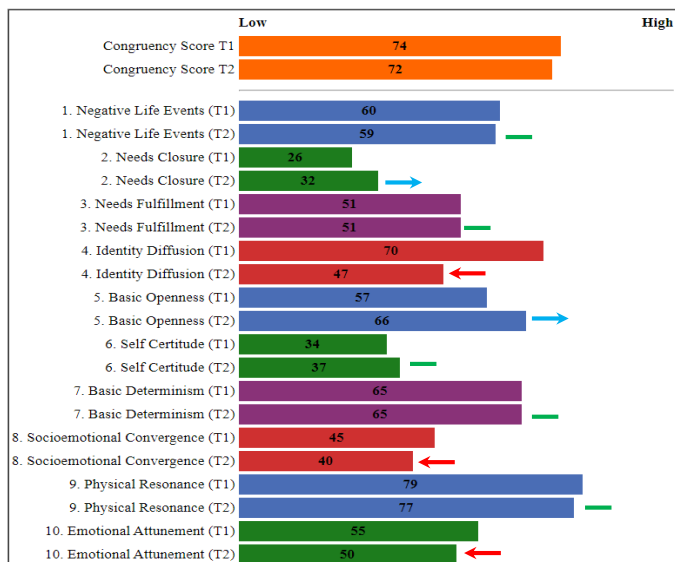
5

Aggregate Profile

N = 17

フィリピン研修

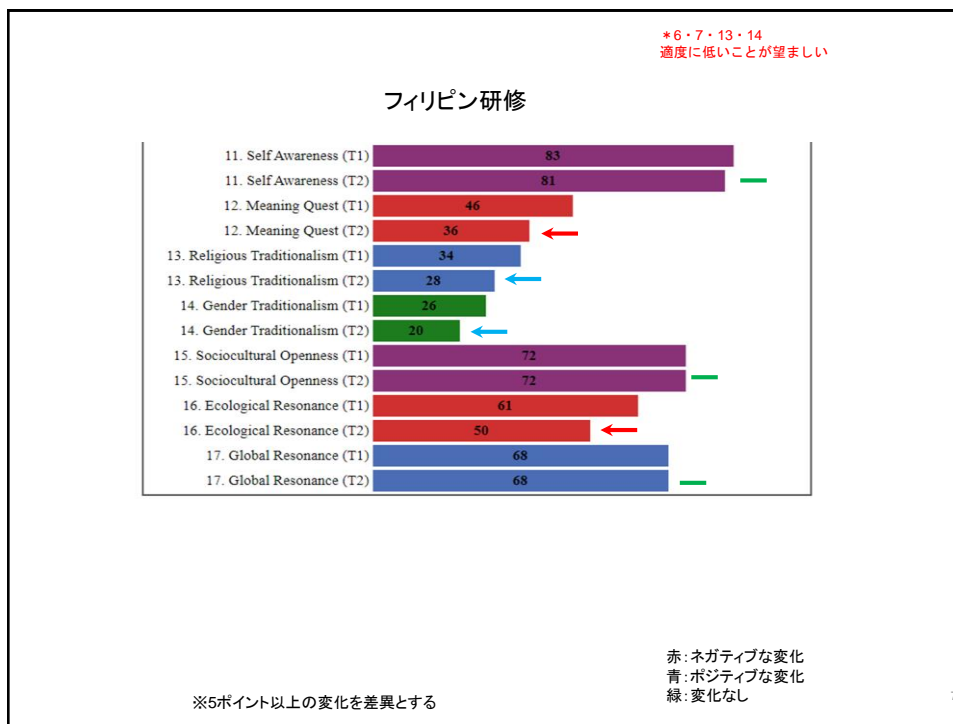
*6・7・13・14
適度に低いことが望ましい



※5ポイント以上の変化を差異とする

赤：ネガティブな変化
青：ポジティブな変化
緑：変化なし

6



【詳細分析例】

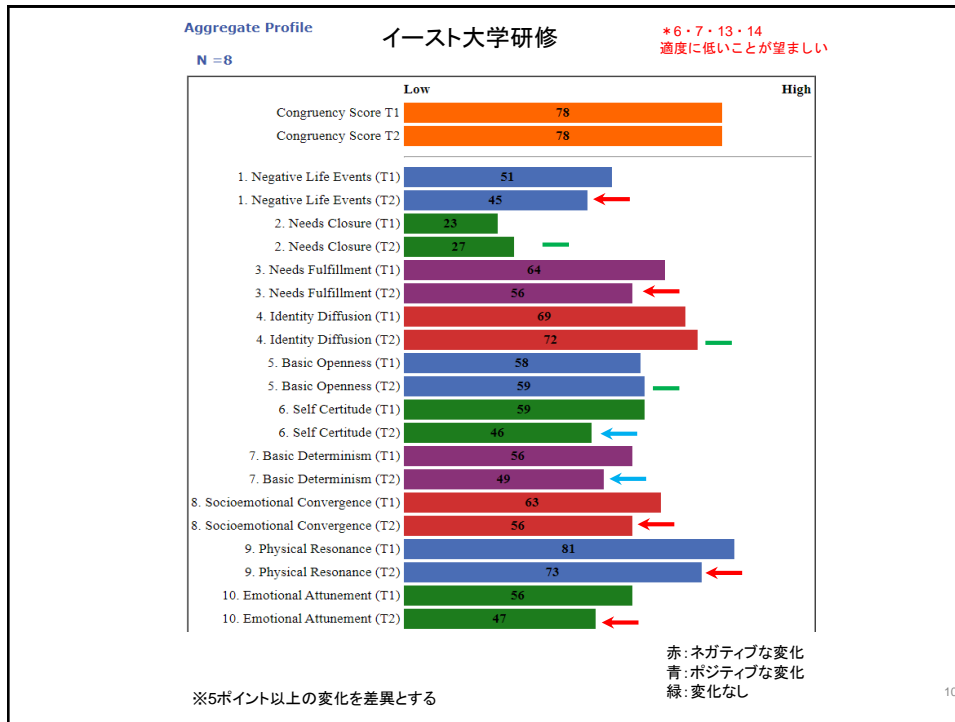
World Language Center (WLC) 夏季イースト大学研修 のBEVI-jによる分析

期間: 2019年8月4日～8月14日

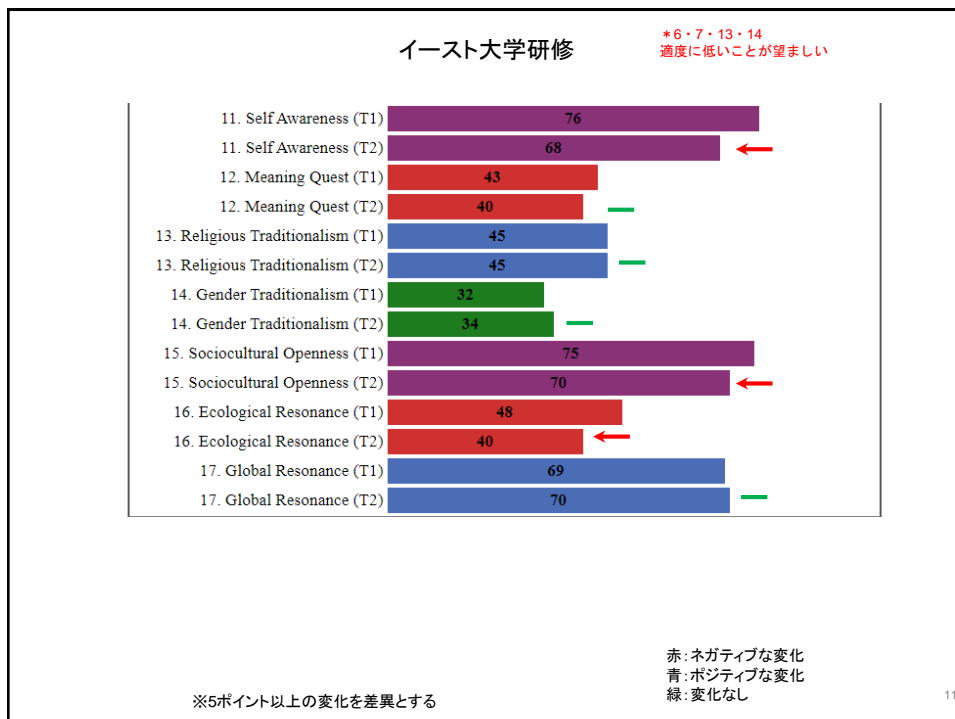
参加者: 30名

研修目的: 語学研修

研修内容: 文化理解やNGOワーカーによる講演、学生交流などのアクティビティを通し、実践的な英語を学ぶ



10



11

【詳細分析例】

文学部バッキンガム大学語学研修 のBEVI-jによる分析

期間： 2019年8月3日～8月25日

参加者： 14 名

研修目的： 語学留学

研修内容： 英語の四技能(聞く・話す・読む・書く)を身につける授業の他、見学旅行で歴史と伝統の薫る場所(オックスフォード、ウィンザー、ロンドン等を予定)を訪問。研修中の宿泊はホームステイとなり、ホストファミリーと生活する中で英国の文化を実体験。

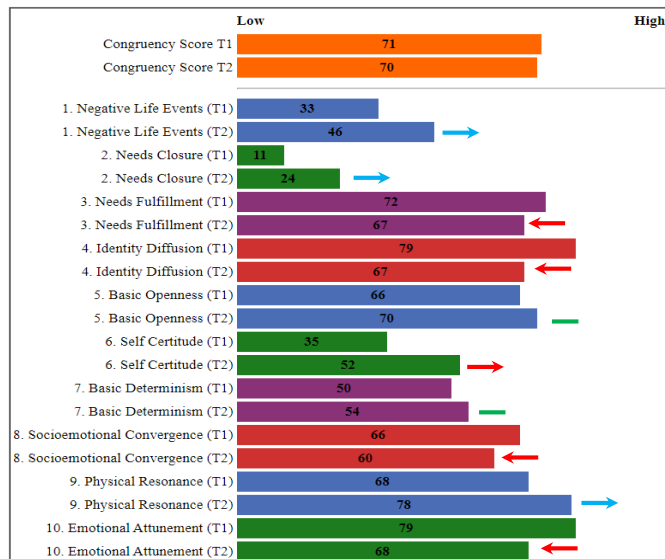
13

Aggregate Profile

N = 8

バッキンガム大学語学研修

*6・7・13・14
過度に低いことが望ましい



※5ポイント以上の変化を差異とする

赤: ネガティブな変化
青: ポジティブな変化
緑: 変化なし

14

